

近年、日本にもたくさんの中国人観光客が訪れるようになりましたが、彼らのマナーの悪さがたびたび指摘されるようになってきています。ゴミをポイ捨てる、電車の中でも大声で電話をする、並んでいる列に横入りするといった彼らは、人目をはばからず思いのままふるまう「傍若無人」な人たちだと指摘されるわけです。もちろん、他者に不快な思いをさせる行動は改めなければなりません、今回はこのような中国人のふるまいを中国の「人間関係」の視点から説明してみようと思います。

人間中心主義といわれる中国では、人との関係がないと何も始まりません。つまり、中国は「コネ社会」であり、コネがないと非常に不自由な日常を送ることになってしまいます。そうした「コネ社会」において、人々は個人的なネットワークを作り、日常的に関わり合い、互いに助け合うとても親密な人間関係を築いていきます。しかし、コネの及ばない、関係のない見知らぬ人たちの世界において何が起ころうが、彼らはあまり関知しません。つまり、中国人にとっての世間とは、個人的関係の範囲に限られているのです。日本のように「こんにちは。今日は冷えますね」などと挨拶をする程度の「知りあい」という間柄は存在しません。

そうした中国人にとって、関係のない見知らぬ人も含んだ「社会」において、抽象的なルールで自分を律するという発想はなかなか生まれてきません。そして、そのことが、中国人の公の場における「傍若無人」と指摘されるようなふるまいを引き起こす要因となるのかもしれない。

文：県立広島大学 植村広美 准教授

2013(平成 25)年 広報あきたかた 1月号掲載